

平成 27 年度 学校評価結果 江津市立川波小学校

重点 目標	中期 目標	短期 目標	目標達成のための計画		自己評価		学校関係者評価		改善策等
			具体策	評価の観点	達成状況及び取組状況	評価	達成状況及び取組状況	評価	
なかよく助け合う子 (ゆたかな心・ゆたかな子)	育成に努める。 礼儀作法を正しく身につけた児童の	「適切な言葉づかい」や「あいさつ」ができるようにする。	1. 児童会を主体とした「あいさつ運動」を継続しながら、よい班の紹介方法を工夫し児童の意識と意欲を高める。 2. 「あいさつ運動」や「登校指導」等のPTA活動を通して、保護者の理解と協力を求める。 3. 「生活目標」を設定し全校体制で取り組む。	1. 「記録簿」から登校時における児童の様子(◎の数の把握)を通して、児童のあいさつの状況を評価する。 2. 「連絡簿」及び「保護者アンケート」の結果を集計・分析する。(保護者の受け止めはどうであるか) 3. 「教職員アンケート」の結果集計及び職員会での振り返りを通して判断。	○ 児童のあいさつに関する保護者アンケートでは68%(昨年度より11%増)児童は55%(14%減)であり課題が残る状況であった。 ○ 「生活目標」を設定し、全校体制で指導を行ったがあいさつ、言葉づかいとも十分に評価できる状況ではないと判断した。	B	○ 校長の「細く長く」のことば通り5年間の成果があらわれてきている。 ○ 明るい笑顔の児童が年々増えてきている。 ○ 各班に一人、積極的にあいさつができる児童がいると雰囲気が変わる。 ○ 先にあいさつできるようにしていきたい。	A	○ 保護者間での“あいさつ”についてもPTA活動を通して、取り組む必要がある。 ○ 「生活目標」及び「達成基準」を明確(具体的)に設定した上での取組と定期的な会議での振り返りと行っていく必要有。 特に言葉づかいについては日々の生活を通して意識化を図っていく必要がある。
	規範意識の向上を図る。	「約束やきまりを守ること」ができるようにする。	1. 学級活動を通して、約束やきまりは“問題行動を減らすためだけでなく、それを守る子どもをほめる為にある”という考え方の浸透を図る。 2. 約束やきまりを明確に示すとともに、“必要に応じて”全校集会等、全体指導の場を設け、規範意識の向上を図る。 3. 「生徒指導職員会」を開催し情報交換の場とする。	1. 教職員の児童へのかかわり方は適切であったか。 2. 必要に応じ「全体指導の場」を迅速かつ適切に設定することができたか。 3. 児童の実態把握や指導目標及び内容に関する共通理解を図ることができるような「生徒指導職員会」を実施することができたか。	○ 「全体指導の場」を必要に応じて、迅速かつ適切に設定したり、目標や方法に関する共通理解を図るための職員会を開催したりすることができた。 ○ 児童の実態については、体育館への集合や話を聞く態度に改善点が見られ概ね良好な状態であったと判断している。	A	○ 運動会の開閉会式等での整列の様子から年々改善されてきていることが伝わってくる。継続的な指導が必要である。 ○ 先生の話聞く態度に改善が見られた。約束やきまりを守れなかった時も個々の児童に反省の表情が見られる。	A	○ 「あいさつ」や「言葉づかい」同様、全職員で同じように指導すれば改善するのが当たり前という考えではなく、めざす姿や具体的な方策を明確にした上で、細く長く取り組むことを大切にしていく。 特に重要な事柄については、定期的に振り返りの場を設定すること。評価アンケート項目に加えることとする。
	集団をめざす。	認め合い、支え合い、共に高まり合う 互いのよさが分かり、相手の気持ちを考えて行動できるようにする	1. 行事や清掃活動に「たてわり班活動」(異年齢集団活動)を取り入れることを通して、自尊感情及び自己有用感を高める。 2. 「学級発表」や「感想発表」を取り入れた「児童朝礼」や道徳教育の充実を通して、自分や友達を大切にすることができるようになる。 3. 「QUアンケート」の活用を通して、児童及び学級集団の実態把握を行う。	1. 「たてわり班活動」を意図的・計画的に行事や集会活動に取り入れることができたか。 2. 「児童朝礼」における「学級発表」や「感想発表」等において認め合う姿が見られたか。 3. 「QUアンケートの結果分析」を活用し児童及び学級集団の実態把握を行うことができたのか。	○ 計画した取組については計画的に実施し、児童朝礼における発言内容や態度にその成果が感じられた。 ○ “よさがわかる”“相手の気持ちを考えて行動する”とはどのようなことなのか達成状況について客観的に判断できない部分もあるが昨年度に比べ、主観的には達成だと判断している。	B	○ 学校関係者評価委員の立場からだと十分把握することは難しいが自己評価の結果を支持。 ○ 有福温泉地区の児童は友だちと遊ぶ様子では気になる点はなし。ただ協力しながら助け合うという点については継続的な指導が必要である。	A	○ 「QUアンケートの結果」の活用が十分ではない。来年度はあらためて活用を通じた取組について考えていきたい。(計画的・戦略的な取組) ○ 「たてわり班活動」を通して“どのような姿”をめざすのか活動ごとに明確にすること。 また、児童にも学級活動等を通して、教師サイドのねらいを伝えていく必要がある。

重点 目標	中期 目標	短期 目標	目標達成のための計画		自己評価		学校関係者評価		改善策等
			具体策	評価の観点	達成状況及び取組み状況	評価	達成状況及び取組状況	評価	
進んで学ぶ子 (確かな学力・かしこい子)	「わかる」授業づくりをめざす。	よようにする。 基礎的・基本的な学習内容を習得できる	1. 「全校テスト (毎月1回)」に向けた取組を通して、漢字や計算等の知識や技能の習得をめざす。 2. 「“わかる” 授業づくりのポイント」をもとにした研究授業及び授業研究会の実施を通して、授業改善への気運を高める。 3. 「学力調査の結果分析」をもとにした「授業改善アクションプラン」を立案し実践する。	1. 「全校テストの結果集計 (80 点以上)」(客観的データ) 及び各種アンケートの集計結果 (主観的データ) をもとに習得状況と取組状況を評価する。 2. 研究授業及び授業研究会の実施状況、授業における教師行動、授業研究会での協議内容を通して評価を行う。 3. 「授業改善アクションプラン」の立案とプランにもとづいた実践状況の確認を通して評価を行う。	○ 研究授業 (授業研究会) や全校テストに向けた取組アクションプランの立案等基礎的・基本的な学習内容の習得に向けた実践活動を意図的・計画的に実施することができた。 ○ “習得状況” については、学力調査による評価では、改善点は見られるものの“習得している” とは言えない状況である。	B	○ 個に応じた指導に苦勞されている様子が伝わる。筆順テスト等の取組も特徴的であり評価できる。ただし、人数が少なく、競争心・競争力の点でもの足りなさを感じる。勝負がすべてではありませんが、他校の様子や結果を伝えながら、やる気を引き出していきたい。	A	○ 「全校テスト」の内容や方法について一度見直しを行う。 ○ 学力向上 (基礎学力の定着) 学習意欲の向上) に向けた取組と“授業改善・実践研究”との関係を (担当も含めて) 整理しあらたな目標と具体的な方策を共有していく年度としたい。特に「学力調査結果の分析」をもとにした授業改善策との関連性を図っていきたい。
	学習習慣づくりに取り組む。	自分から進んで家庭学習に取り組むことができるようにする。	1. 「川波っ子家勉の手引き」や「家勉がんばりカード」の活用を通して、家庭学習に対する意欲を高める。 2. 「小中連携家勉がんばりウィーク」の実施を通して、アウトメディアに対する家庭の理解と協力を得る。 3. 学校司書との連携による各教科等での学校図書館利用の推進や児童の実態や季節に応じた読書環境の整備を通して、読書習慣づくりに努める。	1. 家庭学習への取組“時間及び内容”と各種アンケート集計結果を通して、家庭学習に対する意欲を評価する。 2. 「保護者アンケートの結果」や保護者面談等での状況確認を通して、理解や協力体制の状況を評価する。 3. 学校図書館の利用状況や貸出状況とアンケート結果を通して、児童の読書習慣及び職員の取組状況について評価を行う。	○ 昨年度から継続した取組であり児童や家庭にも浸透してきているが、さらなる工夫改善が必要であったと考えている。 ○ 保護者アンケートでは、25% (昨年度 12) が、児童アンケートでは 31% (27) が“進んで取り組んでいる”と回答。読書については、25% (14%) という結果であり昨年度に比べ肯定的な評価となっている。	B	○ 中学校に行っても自信を持って家庭学習に取り組めるよう長期的な視点も大切にしながら指導にあたっていたきたい。 ○ 地域における学習でも以前に比べ、落ち着いて宿題に取り組む姿が見られるようになってきている。 ○ 様々な工夫が見られ、成果があらわれている。宿題の内容の工夫にも期待している。	B	○ 「家庭学習の充実に向けた取組」についても、マンネリ化しないよう、新たな工夫も必要になってくる。ただし、児童の学習意欲を引き出しながらも、加重負担にならないよう、全校テストの内容等と併せた検討が必要である。 ○ 保護者の理解を深めることができるよう「問題提示」等も行いながら、協力を求めていくことが必要である。
	改善を図る。	「話をよく聞き、自分の考えを話す」ことができるようにする。	1. 「地域のひと・もの・こと」の活用を図りながら、キャリア教育の視点を取り入れたふるさと教育の実践を推進する。 2. 「話す聞くの約束」を確認し、自分の考えを話す時間や場を設定する。 3. 「朝活動作文」や「天声子ども語」の取組を通して“文章を読み理解し、自分の考えをまとめ表現する”ことへの抵抗を減らしていく。	1. 年間指導計画の見直し等、キャリア教育の視点を取り入れたふるさと教育の実施状況を評価する。 2. 「自分の考えを話す時間や場」を設定することができたか。 3. 「朝活動作文」や「天声子ども語」の取組状況及びその成果と課題に関する振り返りを通して評価を行う。	○ ふるさと教育や朝活動に関するアンケートでは概ね肯定的な回答を得た。また、本年度から取組を始めた「天声子ども語」は課題はあるものの、成果を上げつつある。 ○ “話をよく聞き自分の考えを話すこと”の達成状況は集会や授業等でその成果を感じる事ができた。	A	○ 判断・評価することが難しい面もあるが、評価アンケートの結果等では成果があらわれつつある現状が理解できる。 ○ 「天声子ども語」への取組についてはおおいに期待している。 ○ 家庭学習同様、様々な工夫がなされ学校の意欲が伝わってくる。継続的な指導を期待している。	A	○ 「ふるさと教育」や「総合」の内容等を「キャリア教育」の視点を踏まえながら、見直しを行うよい機会であると考え。 ○ 考える力や表現力を高めていく取組と「学力向上に向けた授業改善・校内実践研究」との関連について考え、明確にする必要がある。 ○ 「天声子ども語」の取組について、あらためて目的や方法を再確認する必要がある。

重点 目標	中期 目標	短期 目標	目標達成のための計画		自己評価		学校関係者評価		改善策等
			具体策	評価の観点	達成状況及び取組状況	評価	達成状況及び取組状況	評価	
心身ともに元気な子（健やかな体・たくましい子）	安全管理・指導の徹底を図る。	危険なことが分かり、自ら危険を回避できるようにする。	1. 保護者等の協力を得ながら、計画的に校舎内外の環境整備を行う。 特に運動会開催時の校庭整備には、万全を期す。 2. 年3回の避難訓練を核に、危機発生時に自らの判断で対応できるようにする 3. 「下校指導」や「安全点検」等の実態把握を通して未然防止に努める。	1. 校舎内外の環境整備を計画的に行うことができたか。運動会開催時の整備状況はどうであったか。 2. 「避難訓練時」に、真剣な態度で適切な行動をとることができたか。また、日常生活において、不注意によるけが等の発生状況はどうであったか。 3. 通学路や校舎内等の状況把握を十分に行うことができたのか。	○ 校舎内外の環境整備及び登下校指導による状況確認を行うことができた。 (各アンケート結果も良好) ○ 「避難訓練」では、児童の真剣な取組が見られるとともに、不注意によるけがやガラスの破損がほとんど見られなかった。	A	○ 運動会時の校庭は草刈りや整備が行き届いている。また、校舎内の掲示物等もきちんとされていて気持ちが良い。 ○ 避難訓練については様子がわからないので評価できない。(安全点検も) 登校や下校指導については、計画的に行われており安心である。	A	○ 「避難訓練」については、その年度の児童の実態にもよるが、さらに“レベル”を上げた内容に挑戦していく必要がある。また、緊急時の対応については、保護者との連携や不審者対応等の内容も取り入れていくこと。 ○ 「安全点検」については、よりきめ細やかに、そして、より迅速に対応する必要がある。
	基本的な生活習慣の確立を図る。	よりよい生活習慣づくりや体力づくりに取り組むことができるようにする。	1. 「意図的・計画的な保健指導」及び「のびっ子カードの活用」を通して、「早寝早起き朝ごはん」等の生活習慣づくりをめざす。 2. 給食センターや栄養教諭との連携を図りながら、「食に関する指導」を定期的に実施する。 3. 「新体力テスト」の結果分析をもとにした体力向上策を立て実践する。	1. 保健指導の実施状況及び生活習慣に関するアンケートの結果分析を通して職員の取組状況の評価を行う。 2. 栄養教諭と連携した食に関する指導の実施状況や学習状況の評価を行う。 3. 「新体力テスト」の結果分析をもとにした「体力向上策」を立案し実践することができたか。	○ 保健指導や「食に関する指導」については、計画的に実施することを通して、児童や保護者の関心意欲を高めることができた。 ○ ゲームやテレビ視聴等の望ましい生活習慣や意図的な体力づくりについては、課題が残ったと判断した。	B	○ 「のびっ子カード」を引き続き活用する等、生活習慣の確立や体力づくりについての働きかけを行ってほしい。ただし、家庭の問題、課題でもあることを伝えていくことを求める。(結果を追求していただきたい。) ○ 「体力の低下」は急務の課題である。引き続き重点的な取組を期待している。	B	○ すべき事は計画的に実施できている状況である。今後は、「めざす姿と達成基準」を再確認しながら再度明確にし、あらたなる取組を開始する段階にきている。 特に、体力づくりについては、明確な基準を確認した上で取組を考えていく。 ○ 「アウトメディア」関係については、保護者への状況説明を行っていく。
	児童理解を深める。	明るく落ち着いて生活できるようにする。(心の健康)	1. 「教育相談週間」や「校内委員会」、「ケース会議」「保護者面談」及び「関係諸機関との連携」等を通して、特別な支援が必要な児童への支援体制を整えていく。 2. 人権教育及び特別支援教育に関する研修会を企画し、児童理解を深める。 3. 「職員朝礼なし」を継続し、朝活動とともに行う。	1. 「教育相談」や「校内委員会(ケース会議)」「保護者面談」を迅速かつ適切に実施できたか。また、必要に応じて市教委や教育センター、江津清和養護学校と連携した取組を行えたか。 2. 研修会の実施状況はどうであったか。 3. 児童は落ち着いて朝活動に取り組むことができているか。	○ 特別な支援が必要な児童に対して、迅速かつ適切な支援体制を整えながら対応することができた。 ○ “学校は楽しいですか”という問いに59%の児童が“とっても楽しい”と回答。また、教育相談でも良好な人間関係が見られる等、明るく落ち着いた学校生活を送ることができている。	A	○ 地域での様子からも年々落ち着いた様子で過ごしている。また、地域の会合等の話題でも、好意的な話がよく聞かれる。 ○ この2年間「不登校」や「行き渋り」の児童が0名ということはずばらしいことであると考えている。今後も継続できることを期待している。	A	○ 「職員朝礼」や「朝活動」については来年度検討。 ○ 人権教育や特別支援教育については、今後も積極的に研修会に参加していく。 ○ 諸問題等への迅速な対応だけではなく、意図的計画的な話し合いの場も設定していく。

※ 評価（「取組状況」及び「達成状況」）について

A：「十分に達成した。(90%以上)」 B：「ほぼ達成した。(70%～90%)」 C：「課題がある。(50%～70%)」 D：大きな課題がある。(50%以下)」